

旧三菱重工業熊本航空機製作所の社宅街の概要と現況

○ 準会員 麻田 瑠美* 正会員 辻原 万規彦**

9. 建築歴史・意匠- 2. 日本近代建築史 建築歴史・意匠
健軍、社宅、福利施設、空中写真、現地調査

1. はじめに

日本の近代都市の形成・発展には、企業の社宅街の成立や発展が大きな影響を与えてきた¹⁾。熊本においては第二次世界大戦下の昭和17年、現在の陸上自衛隊健軍駐屯地の位置に三菱重工業熊本航空機製作所が建てられた。それに伴い工場で働く社員や工員のための住宅が健軍一帯に渡って建設された。戦後には戦災で焼けた工員寮の跡地に健軍商店街が形成され、ここを中心に熊本市東部は発展してきた。しかし、今日ではこのような事情を知らない人も多い。

そこで本稿では、三菱重工業熊本航空機製作所の工場建設に伴う社宅街の形成や、道路や路面電車などの都市基盤施設の整備が熊本市東部の発展に与えた影響を明らかにすることを目指して、社宅街の概要と現況を報告することを目的とする。

2. 三菱重工業熊本航空機製作所と社宅街の概要^{2), 3), 4)}

昭和16年9月に陸軍航空本部は三菱重工業株式会社に対して航空発動機生産拡充命令を出すとともに、熊本に工場を建設することを要求した。これを受け、昭和16年12月下旬に視察を行い、土地造成に手間のかからない健軍地区に工場を建設すると決定した。熊本市健軍地区に工場を建設するにあたり、工場で働く社員や工員のための社宅や寮、基幹工員を養成するための青年学校とその寮なども併せて計画された。社宅街が計画されたのは昭和17年～20年であり、健軍、江津、帯山の地域にそれぞれ健菱園、水菱園、前菱園として計画された(表1)。

表1 社宅の建築戸数²⁾ (推定)

		第一期工事 (昭和17年度)	第二期工事 (昭和18年度)
健菱園 工員住宅	1号	-	552戸
	2号	80戸	222戸
	3号	20戸	90戸
水菱園 職員住宅	4号	10戸	90戸
	5号	6戸	68戸
	6号	6戸	-

昭和20年5月には工員達からの要望により、工場に通う足として熊本市電が健軍まで延伸された。

3. 三菱重工業熊本航空機製作所の社宅街の現況

(1) 調査の方法

まず、三菱重工業名古屋航空宇宙システム製作所史料室所蔵の「カミク⁵⁾工事福利施設配置図」(昭和18年7月27日)、同(昭和19年9月5日/12月5日)、国土地理院所蔵米軍撮影空中写真(U171-A-27, 1947年3月13日撮影)を基に、昭和19年頃の社宅や福利施設の推定配置図を作成した。なお、昭和18年の図面には、戦後の引き揚げ者用の住宅を整備する際のものと考えられるメモが加筆されており、戦後直後の情報も知ることができる。これらの2つの図面には「三菱地所株式会社設計課」と記入されていることから、社宅街の計画や社宅の設計は同社によるものだと考えられる。

次に、平成22年9月～10月に現地調査を行い、現存していると推測される住宅や施設を確認、記録した。現存していると推測される建物は、三菱経済研究所史料館で入手した「カミク工事 工事記録写真」(昭和17年10月10日～昭和18年7月8日撮影)436枚を参考とし、建物形状や玄関の位置などから判断した。

(2) 社宅街の現況

昭和22年に米軍が撮影した空中写真から、戦災で焼失したと考えられる建物もある。しかし、健菱園、水菱園ともに当時のものと推測される住宅がいくつか残っており、焼失を免れた部分だけでなく、焼失した部分でも、現在の区画は当時の区画とほぼ同じ状態で残っている。また、当時の水源は戦後、大蔵省を経て熊本市水道局に移管され、現在も使用されている。

健菱園、水菱園を復原した配置図と住宅や施設の残存状況をそれぞれ図1、図2にまとめた。

①旧健菱園の現況(図1)

現在の新生1、2丁目、水源1、2丁目、若葉には健菱園の区画がほぼそのまま残っており、水菱園に比べて一区画が小さく、建物同士が密集して建っている。

The outline and present state of the company town by Mitsubishi Heavy Industries Kumamoto Aircraft Works

ASADA Rumi and TSUJIHARA Makihiko

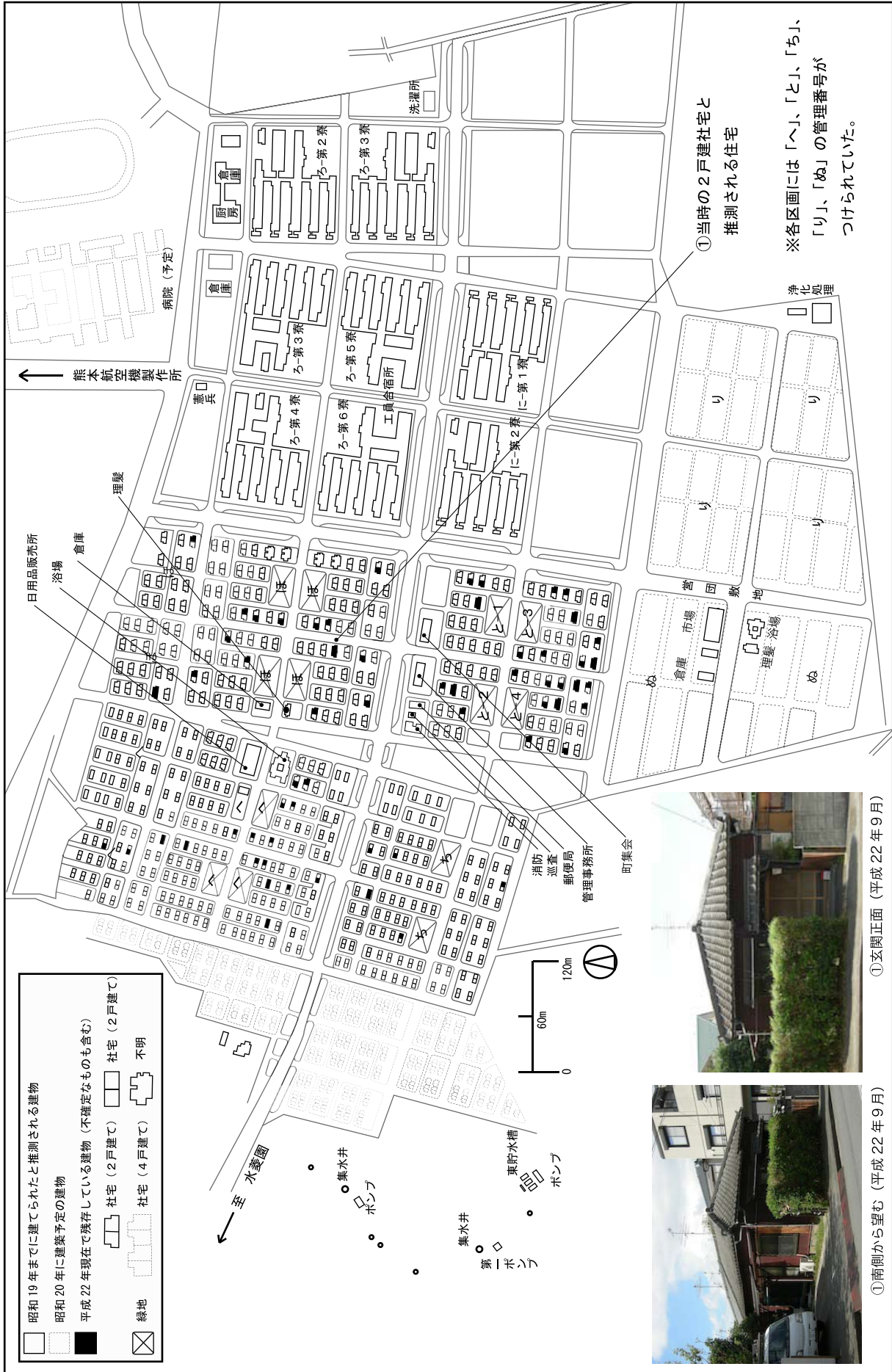


図 1 三菱重工業熊本航空機製作所の社宅街（健康園）

①玄関正面（平成22年9月）

①南側から望む（平成22年9月）



図2 三菱重工業熊本航空機製作所の社宅街(水菱園)

当時の2戸建社宅であると推測される住宅は、1戸単位で区切られ、それぞれ改築や増築が行われているものが多い。中には、2戸建の片方が取り壊され、半分だけ残存しているものも見つかった。図1中の写真の建物は「ほ」の区画のもので、ほぼ手の加えられていない状態で残っていると推測される建物である。

また、各区画の中に防火帯として作られたと考えられる緑地帯は、現在はマンションになっている場所もあるが、駐車場や公園、ゲートボール場として残っている⁶⁾。

昭和20年に水前寺(現在の水前寺公園駅)から健軍まで延伸された市電の健軍線は、戦後多くの路線が廃止されたにもかかわらず、現在でも運行され、熊本市東部に住む人々の足として活躍している。また、健菱園と水菱園を最短距離で結ぶために作られた「連絡道路」は、現在でも交通量が多く、東部の人々に利用されている。

戦災で焼失した工員用の寮の跡地には、戦後に人が集まるようになって商売をはじめ、健軍商店街が形成された。健軍商店街は多くの人で賑わうようになり、熊本市東部の発展の中心になった。

②旧水菱園の現況(図2)

現在の湖東2丁目には、水菱園の区画がほぼそのまま残っているため、健菱園と比べて一区画が大きく、道幅も広く取られている(図2写真①)。

また、防火帯として設けられたと考えられる緑地帯は、現在はテニスコート⁷⁾として残っている。

水菱園でも当時のものと推測されるいくつかの建物が存在する。図2の写真②は、当時の写真と比較して増築なども行われておらず、ほぼ当時の姿のままに残存していると推測できる。特に下見板張りのままの状態のものは非常に少ないため、貴重な建築物である。

この水菱園跡地には、戦後、三菱重工業から工場を引き継いだ井関農機の社員寮や、東京三菱UFJ銀行の熊本寮が建てられ、現在も使用されている。このことから、この土地は現在でも三菱グループと関係があることがうかがえる。

水菱園北西部にあった報国寮(准員/職員合宿所)は、病院が不足していた戦後、熊本市民病院として使用されるようになった。建物は建て替えられて当時の寮の様子を見ることはできないが、現在でも多くの人々が利用し、熊本市東部の住民にとって重要な施設となっている。

水菱園から健菱園へと向かう「連絡道路」沿いには、理髪、浴場、日用品販売所、消防、巡査、郵便局といった福利施設が並んでいたとされる。しかし、現在は幼稚園や市民病院職員住宅となっており、当時の施設は全て目には見えない。

(3)社宅街の建設が与えた影響

戦後、現在の健軍町電停付近では人が集まるようになり、やがて工員用の寮の跡地に現在の健軍商店街が形成された。三菱重工業熊本航空機製作所の建設に伴い延伸された市電の健軍線が人を集めるきっかけとなったと考えられる。

また、当時の区画は小さく、特に工員社宅のあった健菱園では隣家と接しているため、この区画が残っている地区では現在でも近隣住民との交流が活発である⁸⁾。

以上の点から見ると、旧三菱重工業の熊本航空機製作所の工場、社宅、それに伴い整備されたインフラが、現在の熊本市東部の発展に与えた影響は非常に大きい事が分かる。また、当時の区画や2戸建、4戸建社宅は、住民の住まい方にも影響を与え、近隣住民間において親密なコミュニティが形成されてきたと考えられる。

4. まとめと今後の課題

本稿では、三菱重工業熊本航空機製作所の工場建設に伴って形成された、社宅街の概要と現況を報告した。

今後は、工場や社宅街の形成に伴って、道路や路面電車などの都市基盤施設の整備の様子を把握し、それが熊本市東部の発展に与えた影響を明らかにしていきたい。

謝辞

史料の収集にあたっては、財団法人三菱経済研究所史料館史料部 司書 坪根明子様、三菱重工業株式会社名古屋航空宇宙システム製作所史料室 室長 早藤大司様、同 岡野允俊様、北海道大学大学院工学研究院 助教 池上重康先生に大変お世話になった。記して謝意を表す。

また、本稿の一部は、平成22年度熊本県立大学学長特別交付金事業(教員提案事業分)、平成22年度科学研究費補助金(基盤研究(C)、課題番号20560598)によった。

参考文献・参考資料・脚注

- 1) 社会研究会編著:社宅街 企業が育んだ住宅地、学芸出版社、2009.5
- 2) 岡野允俊編:健軍三菱物語—熊本は東へ—、1989.1
- 3) 中西誠一:三菱熊本青年学校物語、1994.1
- 4) 中西誠一編:三菱熊航物語、2000.12
- 5) 「カミク」とは熊本工場の略号である。官設・民営・熊本工場の頭文字を取ったものである。
- 6) ゲートボール場(水源1丁目)、水源1丁目公園、水源2丁目公園、わくわくひろばなどとなっており、近隣住民に親しまれている。
- 7) 湖東2丁目の東京三菱UFJ銀行熊本寮の隣にテニスコートとして残っている。
- 8) 現地調査を行っているときも、近隣の住人が集まって話す姿や、子ども達が大勢で遊んでいる姿をよく目にした。

*熊本県立大学環境共生学部居住環境学専攻

**熊本県立大学環境共生学部 准教授・博士(工学)

Prefectural University of Kumamoto

Assoc. Prof., Prefectural University of Kumamoto, Dr.Eng.